

# 夏期学級講話の作り方

## 夏期学級の講話を作ろう

### 1. 講話ができるまで(概要)

#### ① 講話タイトルを決める

- 夏期学級にふさわしいもの
- 参加対象者にふさわしいもの

#### ② テーマを決める

- 「何を伝えるか、何を伝えたいか」

#### ③ ノート(メモ)に書き出す

- タイトル、テーマをもとに思いついたことをどんどん書き出す
- 箇条書き、文、言葉、キーワードなんでもよい

#### ④ さらにネタを集める

- 体験話をいれる(直接体験、間接体験、日常生活の出来事)
- 必要な材料を集めて話材を増やす(教書、本、新聞、雑誌、インターネットなど)

#### ⑤ レジューメを作成する

- ノートに書き込んだものに「小見出し(キーワード)」をつけて整理する
- 話の流れを考える
- 小見出しごとに話す内容を考えてレジューメを作成する
- 必要に応じて原稿を作成する(完全原稿も可)
- 時間配分をする

……本番前に……

#### ⑥ リハーサル

- レジューメを確認しながら声に出して講話リハーサルを行う
- 時間を測定する

#### ⑦ 修正

- 話し方や言い回し、講話の組み方を変更するなどレジューメを修正していく。
- 時間がオーバーした場合は削る

## 2. 夏期学級講話レジュメ（参考例）

### □ タイトル 「夏期学級を楽しもう！」

#### □ テーマ

##### 夏期学級で何を学ぶかを伝える

「朝夕のお祈り」「あいさつ」「はきものの始末」を実践してその意義と大切さを学ぶ。  
「感謝の心」を持ちみんなで楽しい夏期学級をつくろう。

#### □ お礼拝

#### □ 鎮 魂 — 「基本宣伝歌」

【質問】 夏期学級に来たことがある人？はじめて来た人は？  
なんで夏期学級にきたのかな？

#### □ 夏期学級の特徴

【質問】 学校やキャンプと違う点は？【学校と夏期学級のここが違うなあ？】

【回答】 お礼拝、神さまのお話し、朗詠、三首のお歌・・・

○夏期学級期間中は朝と夕に2回お礼拝をする

○お礼拝→神さまを中心としてプログラムを運営

**神さまを中心にして、全員が生活をする。**

【質問】 なんでお礼拝（お祈り）するのか？

【実践】 お礼拝の仕方（姿勢を正しくすること）

### □ 夏期学級の目標

- 1、あいさつ
- 2、はきものの始末
- 3、感謝の心（火のご恩、水のお恵み、土の恩）
- 4、みんなで楽しむこと（団体生活）

#### 1. あいさつ

【質問】 挨拶にはどんな挨拶がありますか？

【回答】 おはよう こんにちは こんばんは おやすみなさい

##### 挨拶することの大切さ

- ◎ 気持ちのいい挨拶とは？
- ◎ 挨拶は人に元気を与えることができる

## 2. はきものの始末

「はきものは「きちん」と揃えましょう。…後ろを振り返って手で揃える」

- ◎ 履物が揃っていると気持ちがいい
- ◎ 履物を揃えることで小さな心遣いができるようになる

『脚下照顧（きやっかしょうこ）』

自分の足元をよくよく見よという意。他に向かつて悟りを追求せず、まず自分の本性をよく見つめよという戒めの語。

### 思いやりの心

- ◎ トイレなどの共同で使うスリッパ 気がついたら揃えてあげましょう。
- ◎ まずは自分の履物をきちん揃え一ほかの人の「はきもの」が揃っていなかったら揃えてあげましょう。

### ある夏期学級でのお話 ———宿泊所となった旅館にて———

子供たちだ自分たちの履き物だけでなく、他のお客さんの履き物をそろえていた。

## 3. 感謝の心

この世のものは全て人間が造ったものではありません（すべて神様から与えられたもの）。

食物の種は？育てる土は？太陽の光は？水は？空気は？

（……自然の力でいただいている。（空気の恩）空気がなくては生きていけません）

三首のお歌……火（日）のご恩、土のお恵み、水の恩

「恩」＝恵み……火も土も水も人間が造ったものではありません。

- ◎ 三体の神様のお恵みがないとお米は育ちません。
- ◎ 三体の神さまが揃ってはじめてお米ができあがります。

### 水の恩 人は水を飲まない生きていけない

世界人口 60 億人のうち、30 億人は安全な水を飲めないという不衛生な状態にいる地球は「水の惑星」といわれています。しかしこの豊富な水の惑星「地球」に存在する水のうち 98%が海水で私たち陸上の生物は使えません。使える可能性のある淡水は 2%だけ。しかもその 2%でさえ大部分は南極や北極などの氷や地下の深層水で、実際に使える淡水は地球上の水のわずか 0.01%しかありません。地球上の水が仮に風呂桶一杯だとすると私たちが使える水はわずかに 1 滴。この 1 滴の水をすべての陸上生物が分かち合っているのです。

## 土の恩

【質問】 3センチの土が出来上がるのに何年かかる？

4.

## 食べ物は大切に 飢餓による死

世界では7人に1人が日々飢えています

世界では、飢餓やそれに関連する病気のため、毎日2万5千人が命を落としています。そのうち、5歳以下の子どもは1万4千人を占めます。時間に直すと、6秒に1人、子どもが飢えを原因として命を落としています。

なるべく好き嫌いはなくして、食べ残しをしないように

## 「ありがとう」の大切さ

### ありがとうの意味

「あり得ない程のこと」「めったにないこと」（あり得ない程のご親切に感謝します）

### 感謝することの大切さ

ありがたいと思うこと。心にありがたく感ずること。

その感謝できる気持ち、「ありがとう」とたくさん言えるように夏期学級でいっぱい学ぼう。

### きれいな言葉を使いましょう（善言美詞）

「できない」ではなく「できる」と思う。

「やってみよう！」前向きに思う気持ち

「ありがとう」という言葉をいつも使っているとそこには幸せがやってきます。腹が立っているとき、怒っているときにはありがとうとはいえません。

## 生命の不思議

【質問】 心がない人？心はどこにある？

人間には神様から目に見えない心（魂）を与えられているのです。

体は休むことなく働いています。

心臓は止めることはできません。

自分の体に感謝しましょう。

## みんなで楽しむこと（団体生活）

### みんなで楽しむためにはルールが必要

お家のルール 学校のルール・・・

#### 夏期学級のルール

- ◎ チーフリーダー、リーダーの言うことをしっかり聞くこと
- ◎ 班での役割を行うこと、時間を守ること、相手の気持ちを思いやること、ありがとうの大切さ
- ◎ 自分勝手な行動をしない

## □ 最後に（まとめ）

### 誕生した奇跡

私というものは父母が存在したからこそその命です。

その両親にはその又、両親が存在します。

一代 30 年として 4 世代さかのぼると 120 年（明治時代）祖霊さまの数は 30 人。

30 代さかのぼると 900 年前（1112 年）平安時代。21 億 4748 万 3646 人

日本の人口…1 億 2,800 万人

この世に人間として存在していることは、

1 億円の宝くじが百万回連続で当たったほどの、幸運なのです。

みなさんはたまたま生まれたのではなくこの世に生まれさせていただいたのです。

けっして偶然ではありません必然なのです。

この世に生まれてきた意味が必ずあるということを忘れないでください。

一人でも欠けていたら皆さんはいません。みんなひとりひとりが大切な存在です。だから、お互いがお互いを思いやることです。いじめはいけません。

夏期学級で学ぶことは生きていくなかで、大切なことばかりです。

もちろん大人になってからも大切なことばかりです。

夏期学級で学んだことを家に帰っても忘れないでください。

そのためにもまず、この夏期学級で「あいさつ」「はきものの始末」「感謝の心」「みんなで楽しむこと」の 4 つの目標をがんばっておこないましょう。

そして、みんなで楽しい夏期学級をつくりましょう。

### 3. 講話をはじめめる前に（事前確認）

【講話時間】 30分 40分 1時間

【参加対象者】小学生・中学生 信徒・未信徒

【講話環境】ホワイトボード・プロジェクタ

- ・講話前と終わりのお礼拝を
- ・終わり（まとめ）の言葉はしっかりと

### 4. 講話タイトル（講題）を決めよう

（講話タイトル例）

「夏期学級について」

「神様のお話」

「火、土、水のご恩」※「感謝の心」「天の恩」など

「明日からの生活」

### 5. テーマを考えよう 一何を伝えるか、何を伝えたいかー

（テーマ例）「夏期学級について」

テーマ：夏期学級で何を学ぶかを朝夕のお祈り、あいさつ、はきものの始末の大切さを中心に伝え夏期学級中は実践してもらうように促す。また、感謝の心の大切さやみんなで楽しい夏期学級にするためにはどうしたらいいかを考えてもらう

（テーマ例）「神様のお話」

テーマ：神様の存在を感じてもらうために、天の恩に気づいてもらい、感謝すること、お祈りすることの大切さを教える

（テーマ例）「火、土、水のご恩」

テーマ：火、土、水の大切さを伝える。普段の生活でどれだけ恵まれた生活をしているかのありがたさに気づいてもらう。神様の恩と恵みに感謝する心を伝える

（テーマ例）「明日からの生活」

テーマ：夏期学級を通して学んだことを明日からの普段の生活に活かしてもらいたい。感謝の心と良い言葉（善言美詩）を使うことの大切さを特に伝える

## 6. 夏期学級講話の切り口

### □ 夏期学級について

- 夏期学級について（夏期学級で学ぶこと、夏期学級の目標）
- 朝夕のお祈り（お祈りすることの大切さ、惟神霊幸倍坐世の意味、感謝と祈願について）
- あいさつ（あいさつの大切さ、あいさつができれば気持ちのいい人間になれる、人を認めること、大切に思う事、コミュニケーションの基本）
- はきものしまつ（足元を正すこと大切さ、脚下照顧、身の周りを整理することができる、実際に練習してみる、人の履物が乱れたら黙って揃えてあげる）
- 団体生活（協力しあうこと、相手を思いやる気持ち、反省する心）

### □ 感謝のこころ

- 感謝の心（「ありがとう」の大切さ、恩と感謝について、）
- 善言美詩（言霊について、良い言葉・きれいな言葉を使いましょう、不平不満を言わない、悪口など汚い言葉は使わない、言葉の力、前向きな言葉は力になる）

### □ 天地の恩

- 天の恩（地球の奇跡、太陽と地球の関係、大地の恵み、大地の恵みは人間が生み出すことができないもの）
- 土の恩（食べ物を育てくれる土）
- 火（日）の恩（太陽の恩、ご飯が調理できる）
- 水の恩（水大切さ、水を大切に使おう、日本は水に恵まれている、飲み水はごく僅か）
- 食べ物大切さ（ご飯を毎日食べることができない子供たち、毎日食べることができる幸せ、食べ物が食べることができるのは天地の恩があるから、たくさんの人のおかげ）
- 命大切さ（体の不思議、心不思議、神様からいただいたもの）
- 日本に生まれた幸せ（日本は恵まれた国、）

### □ 神さまと祖霊様について

- 神様（目に見えない存在、自然から感じる神様の存在、地球の公転の奇跡、心・本能の不思議、神様っているの？）
- 人は神の子、神の宮（みんないい子、一霊四魂について、魂をみがこう）
- 先祖（祖霊さま、たくさんの先祖、父母の恩）
- 死後の世界（死んだらどうなるの？、霊界の实在、中有界・天界・地獄界について）
- 使命（神さまがお喜びになられること、人にはそれぞれ使命がある、みんな尊い命）

### □ 大本のこと

- 教御祖さまのご紹介
- 三代様のお言葉
- 日出麿先生 生活信条

□ 三代様のお言葉（『寸葉集』より）

- ◎ すなおであること。
- ◎ はきものも始末をよくすることだけではなく、自分のあとしまつを人がみていなくてもしてください。
- ◎ 相手の立場にもなってみること。
- ◎ 自分だけが正しいのではない。
- ◎ お互いはいつもかわりない心で人に好かれる存在であること。
- ◎ 明るくて、気持ちの良い仲間の集団であること。
- ◎ すこやかな心と体をもちましょう。
- ◎ 光陰を惜しんで何ごとにも精一杯はげむこと。
- ◎ 日本の国に生まれた幸せをよく考えてみること。
- ◎ 礼儀を正しくすることは、自他ともにしあわせなのです。
- ◎ 天のご恩、地のご恩、父母のご恩、もろびとの恩を思うこと。

□ 生活信条七訓（日出麿先生）

- 一、物事を決して悔やまぬこと
- 一、言いわけを決してなさらぬこと
- 一、絶えず真剣な努力をなさること
- 一、頼まれなくても親切のありったけを尽くされること
- 一、ご自身の功名手柄を決して自家広告なさらぬこと
- 一、偉そうな振りを決してなさらぬこと
- 一、物に執着のないこと

# 講話のすすめ方

## I. 講話のポイント

A) 相手を知る（聞き手、時間、会場など）

B) 何を伝えるのか、明確にする、つかむ（テーマ《み教え》＝主題を定める、つかむ）

- テーマを理解させるために、あらすじを展開する。
- 講話のテーマ、あらすじについて（「主張」との違い）、主張はどちらかという自分の側＝経験、体験測から述べようとするに対し、講話では、体験談も重要視するが、より客観性、普遍性が求められる。

C) あらすじを考える（「なにを」話す 「どう」話す）

- このような、あらすじの固まりを、たくさん集めたり作ったりして、組み合わせる

全体	<p>死んだらどうなる？</p> <p>題名 件名 (何についての話か)</p> <p>全体像、概要、結論 (一言で言うと)</p>	<table border="1"> <tr><td>全体</td><td>題名 件名 (何についての話か)</td></tr> <tr><td>全体像、概要、結論 (一言で言うと)</td><td></td></tr> <tr><td>部分</td><td>項目① 小見出し 内容 (具体的な説明)</td></tr> <tr><td></td><td>項目② 小見出し 内容 (具体的な説明)</td></tr> <tr><td></td><td>項目③ 小見出し 内容 (具体的な説明)</td></tr> <tr><td>まとめ</td><td>まとめ (簡潔に)</td></tr> </table>	全体	題名 件名 (何についての話か)	全体像、概要、結論 (一言で言うと)		部分	項目① 小見出し 内容 (具体的な説明)		項目② 小見出し 内容 (具体的な説明)		項目③ 小見出し 内容 (具体的な説明)	まとめ	まとめ (簡潔に)
全体	題名 件名 (何についての話か)													
全体像、概要、結論 (一言で言うと)														
部分	項目① 小見出し 内容 (具体的な説明)													
	項目② 小見出し 内容 (具体的な説明)													
	項目③ 小見出し 内容 (具体的な説明)													
まとめ	まとめ (簡潔に)													
部分	<p>項目① 小見出し 内容 (具体的な説明)</p> <p>項目② 小見出し 死後の世界は実在する 内容 (具体的な説明)</p> <p>項目③ 小見出し 霊肉脱離、死の意義 内容 (具体的な説明)</p>	<table border="1"> <tr><td>全体</td><td>題名 件名 (何についての話か)</td></tr> <tr><td>全体像、概要、結論 (一言で言うと)</td><td></td></tr> <tr><td>部分</td><td>項目① 小見出し 内容 (具体的な説明)</td></tr> <tr><td></td><td>項目② 小見出し 内容 (具体的な説明)</td></tr> <tr><td></td><td>項目③ 小見出し 内容 (具体的な説明)</td></tr> <tr><td>まとめ</td><td>まとめ (簡潔に)</td></tr> </table>	全体	題名 件名 (何についての話か)	全体像、概要、結論 (一言で言うと)		部分	項目① 小見出し 内容 (具体的な説明)		項目② 小見出し 内容 (具体的な説明)		項目③ 小見出し 内容 (具体的な説明)	まとめ	まとめ (簡潔に)
全体	題名 件名 (何についての話か)													
全体像、概要、結論 (一言で言うと)														
部分	項目① 小見出し 内容 (具体的な説明)													
	項目② 小見出し 内容 (具体的な説明)													
	項目③ 小見出し 内容 (具体的な説明)													
まとめ	まとめ (簡潔に)													
まとめ	<p>まとめ (簡潔に)</p> <p>霊界の状態、天国に登る方法</p> <p>霊界は実在し、個性ある靈魂は、時間空間を超えて存続している。天国に登るには、この世で、人生をまっとうすること</p>	<table border="1"> <tr><td>全体</td><td>題名 件名 (何についての話か)</td></tr> <tr><td>全体像、概要、結論 (一言で言うと)</td><td></td></tr> <tr><td>部分</td><td>項目① 小見出し 内容 (具体的な説明)</td></tr> <tr><td></td><td>項目② 小見出し 内容 (具体的な説明)</td></tr> <tr><td></td><td>項目③ 小見出し 内容 (具体的な説明)</td></tr> <tr><td>まとめ</td><td>まとめ (簡潔に)</td></tr> </table>	全体	題名 件名 (何についての話か)	全体像、概要、結論 (一言で言うと)		部分	項目① 小見出し 内容 (具体的な説明)		項目② 小見出し 内容 (具体的な説明)		項目③ 小見出し 内容 (具体的な説明)	まとめ	まとめ (簡潔に)
全体	題名 件名 (何についての話か)													
全体像、概要、結論 (一言で言うと)														
部分	項目① 小見出し 内容 (具体的な説明)													
	項目② 小見出し 内容 (具体的な説明)													
	項目③ 小見出し 内容 (具体的な説明)													
まとめ	まとめ (簡潔に)													

## II. レジюме作り

レジюмеとは（フランス語）：摘要、大意、要点、要約したプリント、

内容、材料＝小見出しの要素（わかりやすさ）

- 導入部（序論）、主要部（本論）、結び（結論）
- 5W1H（いつ、どこで、だれが、なにを、どうした）
- 起承転結（筋道を立てて話す、4コマ漫画）
- 帰納法（経験、事実、個々の事象を積み上げ結論を導く）
- 演繹法（順序立てた仮定により、最終結論を導く。例：三段論法）

## 内容、材料＝小見出しの情報・資料収集

- ご神書・教書（※出典を明記しておくこと）
- 印刷物、機関誌など
- ご神徳談（見聞した事例、他人の体験談、自分の体験など）
- 『実践リーダー教本（初級・中級・上級）』、『実践リーダー読本 大本紹介講座「実践講話例（一）」』、『実践リーダー読本 大本問答集』など《天声社で販売》
- 一般のニュース、新聞記事、著作（本）、インターネットなど
- 立ち話、世間話、井戸端など

## III. 話し方

A) 自分の言葉で話す（誠意と熱意をもって⇒生き生きと、心に届ける）

B) 短い言葉、結論を先に（一文一情報）

- 「○○は、○○です」「△△は、△△である」ワンセンテンスに、ワンメッセージ

C) 聞き手を引き付けるには

- 服装（外見＝ルックスが与える心理的影響）
- 臨場感を持たせて（ジェスチャーも）
- 具体的に（たとえ話、エピソードを活用）

「目に浮ぶ」ように話す

例：見えない「寒さ」⇒「吐く息が白い」、「氷が張った」と事実で語る

「共通尺度」を使う（「数字」や「例えを使う」）

例：「大きな木」⇒ 高さ5メートル、私の身長約3倍（弱）

「自分の感覚」を生かす

例：「美しい風景」⇒ 一瞬、すべてを忘れさせた、水の青さに息を呑んだ

D) 聞く人を意識して

- 聴講者側に視線を向けて話す  
（ホワイトボードを書く時＝聴講者に背中を向ける時は、話さないほうが良い）
- 重要なご教示は引用、出典を明らかに
- 話に抑揚を（ゆっくり、普通に、勢いよく）
- 時にはユーモアも交えて（教えが三分、体験が二分、後の残りはユーモアで）
- 敬語を正しく（尊敬語・謙譲語・丁寧語）
- 声を鍛える（声量、歯切れ良く）

- 間合い、スピードは控え目に（大勢ほど）

## E) 音のことばの特性

瞬時に消える（⇒聞いたときに、一度でわかる表現を）

同音異義語が多い（⇒区別がつくように、工夫する）

例：科学—化学、市立—私立、心理—真理、講演—公園—後援—好演

発音が不明瞭だと伝わらない（⇒特に固有名詞は、ゆっくり明瞭に）

例：「金メダル？銀メダル？」「外務省？財務省？」「岡山県？和歌山県？」

難解な漢語、専門語は、やさしいことばに言い換える

例：平易→やさしい 判明→わかる 挙行→おこなう

施工→（工事を）行う、（法律を）実施する、（善行を）施す

## F) ビジュアル資料の使用（紙芝居、パワーポイントなど）

## G) 「話し」で気をつけたいこと

- むやみに弁解をしない
- 非難・中傷をしない

## H) 講話前は、口に出してみる（イメージトレーニングでも可）

## I) 開始直前は、「神さま、おまかせします」という祈願の心で 直後のお礼拝は、感謝の心を捧げる

# IV. 話しを振り返る

## A) 話の推敲（事前）

原稿やメモの使い方

- 常識と論理、概念の整理したり、話の運びを点検したり、用語の推敲のために「完全原稿（話す言葉をすべて書き出す）」を作ることもある。※話す時は原稿を見すぎないように注意する。
- 必要最低限の情報や、苦手な語句（年月日や確率などの正確な数字）、話のつながりだけをメモし、多く書き込まないパターン原稿もある。

## B) 話の改善（事後）

- 録画、録音をして、見聞きしてみる（クセに気づく）
- 他人に、後で聞いてみる
- アンケートを活用する

## V. 最後に —夏期学級ベテラン講師に聞きました—

- 何を話すか、という素材（資料）集めに時間をかける。
- 小さなエピソードをたくさん用意しておく。
- ストーリー（筋書き）を組み立てて、ゴール（み教え）をはっきりさせておく。
- 自分が伝えようとしている内容をテキスト化（言語化）する。  
※自分が「分かったつもり」になっている＝理解していない 言葉や内容を把握し、解決させておく
- 先輩の話（講話例）を真似てみる。  
※ネット上(youtube 動画)などで公開されているミニ講話や、レンタルDVDの講話モノも参考になる
- 講話は、最終的にはみ教えを伝えること。決して青年の主張にならないように。